

社会教育委員会議「令和2年度 第1回定例会」 次第

令和2年7月29日 午前13時30分～
飯田市役所 C311-313 会議室

- 1 開 会 青木生涯学習・スポーツ課長
- 2 委嘱状交付 代田教育長
- 3 あいさつ 代田教育長

4 委員・職員自己紹介 …資料1

5 説明・確認事項

- (1) 審議会等への委員の選任について …資料2
- (2) 昨年度第2回定例会に出された意見について、今年度の取組み状況…資料3

6 協議事項

- (1) 座長、副座長の選出について 進行…生涯学習・スポーツ課長
<事務局案>
座 長：中島 正韶 委員（飯伊連絡協議会会長・長野県連絡協議会副会長）
副座長：永井 祐子 委員（県代議員）

座長・副座長挨拶

*以下の進行…座長

- (2) いいだ未来デザイン2028及び第2次教育振興基本計画について…資料4 資料4-2
・前期4年の成果と課題
・中期に向けての意見等
- (3) 社会教育委員会議の活動についての意見交換・情報提供
・社会教育委員活動について
・各出席会議での課題や取組状況について
・社会教育行政に対する提言、等

8 今年度の日程

期 日	会議名	場 所
9月17日(水)	長野県社会教育研究大会	総合教育センター
10月下旬	社会教育委員会議(第2回)	
11月12日(木)～13日(金)	全国社会教育研究大会兼関東甲 信越静社会教育研究大会	新潟県
12月7日(月)	飯伊理事会(第2回)	飯田合庁
2月下旬	社会教育委員会議(第3回)	

◎県理事会(会長)

11月27日(金) 理事会④

長野県庁

2月5日(金) 理事会⑤

長野県庁

*以降は未定

9 その他

10 閉会

*終了後、社会教育委員研究会(社会教育委員による自主研究)

令和2年度 飯田市社会教育委員 名簿 (50音順 敬称略)

令和2年4月1日現在

氏名	種別
いまむら さちこ 今村 幸子	B 社会教育関係者
いまむら みつとし 今村 光利	B 社会教育関係者
うえまつ としあき 植松 敏明	B 社会教育関係者
いとう まさこ 伊藤 政子	A 学校教育関係者 千代小学校長
すずき まさこ 鈴木 雅子	B 社会教育関係者
たけうち みのる 竹内 稔	C 学識経験者
ながい ゆうこ 永井 祐子	C 学識経験者
なかじま まさあき 中島 正韶	C 学識経験者
ひらさわ かずひろ 平澤 和広	A 学校教育関係者 緑ヶ丘中学校長
はっとり たまよ 服部 珠予	B 社会教育関係者
ひらた むつみ 平田 睦美	C 学識経験者
みうら ひろこ 三浦 宏子	B 社会教育関係者

種別 A：学校教育関係者 B：社会教育関係者 C：学識経験者

教育委員会職員名簿			
職名	氏名		
教育長	代田 昭久		
教育次長	今村 和男		
地域人育成担当参事 生涯学習・スポーツ課長	青木 純		
学校教育課長	桑原 隆		
学校教育専門幹	湯本 正芳		
文化財担当課長	馬場 保之		
歴史研究所副所長	北原 香子		
公民館副館長	秦野 高彦		
文化会館長	棚田 昭彦	地育力向上係	氏原理恵子
中央図書館長	瀧本 明子		前澤 正子
美術博物館副館長	久保敷武康		島田 大輔

審議会等への委員の選出について（令和2年度）

審議会等の名称	委員氏名	任期
飯伊社会教育委員連絡協議会理事・県理事	中島 正韶	R1～ 2年
飯伊社会教育委員連絡協議会理事・県代議員	永井 祐子	R1～ 2年
飯田市美術博物館協議会委員	竹内 稔	R1～ 1年
飯田市青少年問題協議会委員	三浦 宏子	R1～ 2年
青少年育成センター青少年育成推進委員	今村 光利	R1～ 2年
「人形劇のまち飯田」運営協議会	植松 敏明	H30～ 3年
飯田市キャリア教育推進協議会委員	今村 幸子	1年
わが家の結いタイム推進協議会（校長会）	伊藤 政子	1年
わが家の結いタイム推進協議会（校長会）	平澤 和広	1年

※今年度(令和2年度)の各課の取組みについていただいた意見の現況(進捗)について、各課より報告します。

No.	関係課	内容(事業名等)	令和元年度 第2回定例会での意見など(要旨)	令和2年度の進捗状況等
1	生・スポ (地育力)	地域人育成一貫カリキュラム推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児から高校生までの一貫した教育の取組みは重要であり、流れを止めることなく、一連の人の成長を見守ることは大事である。特に、英語教育など小学校から中学校への接続に配慮し、学ぶことが楽しいと思えるような授業展開や人形劇など地域と連携した場の提供ができるとういと思う。また、地域人教育など、高校と公民館との事業が行われているが、中学生との事業も取り入れていくと、小中高校との連続性が生まれるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育については、小学校3年生から会話を中心としたコミュニケーションを通して、楽しみながら英語に慣れ親しみ、英語が好きな子どもを育むことを大切に、中学校での学習につなげています。また、ワクワクする授業こそが学力向上につながるを考え、10人のALT(外国語指導助手)とともに、よりよい授業づくりをめざしていきます。 ・また、地域人教育については、これまで小中連携一貫教育で取り組んできたふるさと学習を幼児や高校とつないで連続的に取り組むために、それぞれの地域の特色を生かしたカリキュラム編成をキャリア教育と一体的にとらえて進めるとともに、高校との連携についても強化していきます。
2	生・スポ (地育力)	社会教育の現状と課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育100年の歴史、郷土の偉人である太宰春台が唱えた「学んで」「問う」力こそ、社会教育でつけていきたい力である。改めて節目の年に、社会教育について考えていかななくてはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市の社会教育の現状や課題について、関係課が所管する各種審議会等で協議していきます。この地域がこれまで積み上げてきた社会教育の歴史を踏まえつつ、生涯学習社会の実現に向けた社会教育の現状と課題について引き続き委員の皆様のご知見を賜りたいと思います。
3	生・スポ (地育力)	わが家の結いタイム推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「わが家の結いタイム」の進め方について、各地区のコミュニティスクールと連携し、学校運営協議会の場で具体的な実践例を出すなどの工夫をすると家庭教育の向上につながるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健やかな成長のために家庭教育は重要であると認識しているこの取組みは、各学校PTAを中心にそれぞれに推進いただいているところです。今年度は、各学校の飯田コミュニティスクールの中で話題にさせていただけるようPTA役員会や公民館長会・主事会等と連携し、さらに、学校、家庭、地域が一緒に子どもを育む意識を高めていきたいと考えていきます。
4	生・スポ (文化財)	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財保護事業 ○いいだ未来デザイン2028 ○人形劇のまちづくり事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいだ未来デザイン2028について、コロナウィルスの経験により新しい考え方や働き方が生まれてきており、若者の定住・移住が期待できる。そのような大きな視点を持って社会教育をみていく12年間のビジョンであると思う。「地域の誇りと愛着で20地区の個性が輝くまち」とあるが、ここに育ったことを誇りに世界に流布していくきっかけになるという大きなビジョンを持って社会教育を図っていけると良い。そのためには、地域の歴史・文化・伝統芸能等に関わるものがきっかけとなると思う。 ・小中高校生への発掘体験など、楽しい体験から地元への興味関心が生まれてくるような事業を実施してほしい。 ・P35南あわじ市と中学生交流は、他地区との交流により自分たちのまちの素晴らしさを認識する事業であり、ぜひ進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、いいだ未来デザイン2028と第2次教育振興基本計画の前期4年の最終年となります。これまでリニア開通を見据えて計画を進めてきましたが、今回のコロナの経験も踏まえた上で、この地域の将来像を描きながら、中期4年の計画策定としたいと考えており、いただいた視点を盛り込んでいきたいと考えます。 ・地域の歴史や文化に興味を抱ききっかけの一つとして遺跡の発掘体験は有効な事業と認識しているところです。今年度は発掘調査が少ないですが、条件の整った調査の中で事業を検討させていただきます。 ・本年度の南あわじ市の中学生が飯田市を訪問する相互交流は、コロナ禍の中で、実施が困難な状況です。しかし、昨年度に交流した三原中学校では、飯田で同じように人形浄瑠璃に携わっている中学生がいることを知ったことで大きな励みになり、フェスタへの参加も検討していたとのこと。また、公益財団法人淡路人形協会より、南あわじ市内中高3校と徳島県・神奈川県の2校、飯田市の1校を含めた6校による発表会・交流会などを企画してくれていました。現在、代わりにオンラインによる交流会を企画されており参加の打診がありました。文化会館としても少しずつ広がっている「つながり」を大切に、継続できるような事業の形を模索していきます。
5	生・スポ (文化財)	飯田古墳群保存活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・恒川地区が国指定地区になったが、リニア開通に向けた活用に向けて、生涯学習・スポーツ課と市民で考えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡恒川官衙遺跡の保存活用を目的に整備を行う史跡公園について、地域で進めている文化財等を活用した地域づくりの取組との融合を図るとともに地域住民に愛着をもって関わっていただけるよう、現在、地域住民・団体等に対し説明や意見聴取を行っています。

6	生・スポ 美博	○平和学習・人権教育推進事業 ○美術博物館教育普及・活動支援事業	・美術博物館や満蒙記念平和資料館などの各施設と学校とをバスでつないでいくことは、良い取り組みである。 ・小学校での美博見学事業を早速具体化していただき感謝。竜東地区三校合同で計画している。	・今年度も、小中学校と各施設の学習機能をつなぎ、小中学生の平和・人権学習やふるさと学習を支援していきます。 ・美博では、小学校の受入れに向けた案内を実施しました。企画段階から相談が受けられる体制を整え各学校の要望に応じて参ります。
7	歴研	歴研究所事業	・歴研の職員は任期の関係により研究員が変わるため継続が難しいと聞く。研究体制や雇用の継続など、研究が充実していけるようにならないものか。	歴史研究所の基礎共同研究は、研究員が変わっても継続して行っています。飯田下伊那をフィールドとする若手研究者を5年間の任期付職員として採用することで、外の研究者とのつながりの輪を広げていくことができると考えています。市全体の専門職の採用計画も勘案しながら今後進めていきます。
8	市公	飯田市公民館事業について	・私が暮らす地域では、若者会議を実施している。公民館が取り組む地域人教育などは、かつての家庭教育事業のように、市公民館がモデル的に取り組んでいるものを各地区へ展開していくと良いのではないか。	飯田市公民館は、地区公民館に波及することを狙ったモデル的な事業の実施も重要な役割です。 地域人教育の地区への波及では、橋北公民館が地区内の事業者と協働して、飯田OIDE長姫高校の卒業生による「高校生スーパー」を実施しています。今後も地域人教育などで培ったノウハウを各地区へ展開できるよう取り組みます。
9	市公	○飯田コミュニティスクール推進事業	・新学習指導要領に外国語が導入されるため、学校行事の見直しが必要となる。公民館事業として、地域と一緒にできるよう学校運営協議会で話を進めている。「飯田コミュニティスクール推進事業」を活用して、学校と地域が連携して子どもの学びを支援する事業を展開していきたいと考えている。	令和2年度より飯田コミュニティスクール推進事業を公民館に移管しました。公民館は飯田コミュニティスクールのコーディネーターとして地域・家庭・学校の三者が協働して活動する取り組みを支援していきます。
10	図書館 市公	○図書館事業 ○飯田コミュニティスクール推進事業	・毎週水曜日、図書分館に多くの子どもが行っている。学校運営協議会の話題の中で、今後も子どもの居場所として地域と連携してできることを考えていきたい。	・地域の身近な図書館としての分館には、その地区の子どもたちが多く来館してください。学校と連携をして、授業のなかで利用体験を行ったり、公民館と共催で行事を行うなど、子どもも地域の方も気軽に立ち寄れる居場所となるよう取り組んでいます。 ・公民館では図書分館と協働で子どもたちの自宅へ本を届ける取り組みを行いました。これからも多くの子どもの心のよりどころとしての図書分館であるよう取り組みます。
11	図書館	○図書購入・提供事業 ○子ども読書活動推進事業	・2月に図書館主催の信州大学教授の講演会が良いと聞いた。中高生には、コロナウイルスやAIなど世界で起きていることや社会のこと等、自分の身近な地域も大事だがもっと広く世界を見る視点を持ってほしい。 ・公民館でも事業を行っていると思うが、図書館でも地域住民の学びを支援する拠点として、貸出以外にも、終活や遺言の書き方、社会経済など住民の様々な課題への支援や情報発信が増えるといいと思う。	・今年度は中高生を対象に『もしも日本人がみんな米つぶだったら』の著者山口タオ氏を講師に、豊かな想像力を持って世界をとらえることの大切さをテーマとした講座を計画しました。コロナウイルスの対策で講座は来年度以降に延期しますが、WEBを使ったプレ講座を計画しています。 ・今年度は図書館サービス計画の見直しの時期となっています。どのような学びの支援や提供ができるのか、ニーズを探りながら検討を進めます。
12	その他	○飯田未来デザイン2028について	・未来デザインの「合言葉はムス 誰もが主演 飯田未来舞台」このキャッチフレーズはとても良い。2028年に向かっての原点として、ここへ常に立ち返り、主体である子どもの声、大人の声、皆の声を聞いてやっていただけるとありがたい。 ・皆が同じ方向を向くためにも、いいだ未来デザインを多くの人に理解してもらうことが大事と感じる。	・今年度は、いいだ未来デザイン2028の前期4年の最終年であり、中期の策定に向けて、飯田市全体で企画課を中心に「いいだ未来デザイン会議」や関係課による各種審議会等を開催して、多くの市民の皆さんの意見を反映させて、計画的に進めてまいります。また、その策定のプロセスを通じて、市民の皆さんとめざす姿や理念の共有を図っていきたくと考えています。

13	その他	情報発信について	<p>・学校からのお便りなど情報が多すぎると感じる。情報発信を受け取る側のことを考えた発信の仕方が必要である。一緒に考えたい。</p>	<p>・生徒の安心・安全に関わる緊急性の高いものと、学級通信等の子どもの育ちを伝えるものがありますが、各学校では各家庭の事情に応じて適宜情報発信をしています。特に外国人保護者等への発信については、翻訳文書や直接担任から連絡するなどの配慮をしています。</p>
----	-----	----------	---	---

12の柱	ねらい	指標名	現状 (平成27年度実績)		令和元年度 実績	目標 (令和2年 度)	達成 状況	備考 ※達成状況 ○：達成、△未達成、 ▲未達成で平成27年度から悪化したもの	担当課としての現状分析 (現状と課題)	
1 発達・成長の土台をつくる	子どもたちが、心身共に健やかに成長し、個性や可能性を伸ばす土台となる、基礎的な学力・体力の向上を図ります。	学校に行くのは楽しいと思っている児童生徒の割合	小学校	85.90%	86.20%	90.00%	△	全国学力学習状況調査で「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合	<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのは楽しい」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校共に現状維持であった。「学力向上『結び』プラン」を基にした授業を展開することが位置付けてきており、誰もが「わかる」授業の展開を心がけています。 一人ひとりに丁寧に寄り添った指導が浸透しつつあり、どの子にも居場所のある学級作りを意識した指導ができています。 定着しつつある「学力向上『結び』プラン」を基に、「ねらい、めりはり、見とどけ」の授業づくりを全ての教科、全ての教室で行われるようにさらに徹底していく必要があります。 全国学力学習状況調査の結果で、小学校6年生の結果から、同じ子どもたちが中学校3年生になったときに、全国や長野県と比べて、学力の伸びが悪いことが大きな課題です。中学校での学びをどのように保障していくかが大きな課題です。 中学校1年生と、2年生の新たな不登校が課題です。原因を分析しつつ、生徒や家庭に寄り添った指導を心がけ、引き続き不登校が減少するように努める必要があります。(学教) 	
			中学校	81.10%	80.50%		▲			
		子どもの運動能力総合評価のA・B評価の割合	飯田市	40.60%	35.70%	全国値以上にする	▲			全国体力・運動能力、運動習慣等調査の調査対象である小学校5年と中学校2年の平均値
			全国	43.70%	43.80%					
2 グローバル時代を生きる力を育む	グローバル化が進展し社会変化がさらに激しくなる時代の中で、子どもたちが自らの力で未来を切り拓いていける力を育みます。なお、本アクションプログラムは「L.G(地域・地球)飯田教育」の視点に立ち、「3 ふるさと飯田への愛着を育む」アクションプログラムと一体的に取り組みます。	将来の希望を持っていると 思っている児童生徒の割合	小学校	84.70%	82.20%	90%	▲	全国学力学習状況調査で「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒は、微減しています。実生活と結びつけた授業のあり方に課題があったり、職場体験学習が仕事を体験することに重点が置かれてしまい、児童生徒のキャリア発達に応じた教育が不十分であったりしたことが原因と考えられます。 実生活と結びつけた授業のあり方を工夫したり、児童生徒が夢や希望のもてる場面に会う工夫をしたりしていく必要があります。また、あんな大人になりたいと思える生き方を紹介したり、身近な大人がそのような生き方の見本を示したりして、将来の生活に夢や希望が持てるように工夫していきます。更に、キャリア教育も積極的にを行い、自らの生き方について問うような授業の展開を考えていきたいと思います。 小学校での外国語の学びを中学校外国語に生かせるよう、外国語教育における小中接続のあり方を強化する必要があります。また、小中ともに、知識の伝達に偏らない、単元ゴールのある実際のやりとり(コミュニケーション)のある授業づくりを行う必要があります。(学教) 	
			中学校	72.10%	66.90%	80%	▲			
3 ふるさと飯田への愛着を育む	地育力を活用したふるさと学習、キャリア教育、体験活動などを通じて、子どもたちのふるさと飯田への誇りと愛着を育みます。本アクションプログラムは「L.G(地域・地球)飯田教育」の視点に立ち、「2 グローバル時代を生きる力を育む」アクションプログラムと一体的に取り組みます。	飯田への愛着を感じている高校生 の割合		75%	—	90%	—	生涯学習・スポーツ課実施の飯伊8校対象の高校生アンケートの回答割合 ※高校生アンケート廃止のため調査不可	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小中学校において子ども未来事業交付金を活用し、LGの視点の実践活動の充実を努めるとともに、各校の活動事例を教頭会プロジェクトで情報共有し事業の充実を図りました。 取り組みの成果の検証が必要ですが、高校生アンケートを廃止したため現状を把握できていません。(生・スポ) OIDE長姫高校や飯田女子高校における地域と連携した地域人材教育や各校の課題研究授業など地域と連携した取り組みが増えています。 自らのふるさとを語り、課題を見つけて解決しようとする人材を育むためには、高校時代の探究学習は有用であり、多くの高校へと広げていくことが必要です。 それぞれの地域の特色を生かしたふるさと学習のカリキュラム編成をキャリア教育と一体的にとらえて進めていくことが必要であり、そのための概念理解の促進が課題です。(公民館) 	
			地域行事への参加している児童生徒の割合(小学校・中学校)	小学校	90.10%	88.20%	90%			△
		中学校		68.50%	73.40%	80%	△			
		4 豊かな心を育てる	子どもたちが自己肯定感を抱き、他者をいたわり共に生きていけるよう、豊かな心を育みます。	不登校の児童生徒の在籍比	小学校	0.57%	0.87%			0.20%
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思える」児童生徒の割合	小学校				83.10%	96.90%	100.00%	△		
	中学校			76.30%	94.30%	100.00%	△			

12の柱	ねらい	指標名	現状 (平成27年度実績)		令和元年度 実績	目標 (令和2年 度)	達成 状況	備考 ※達成状況 ○：達成、△未達成、 ▲未達成で平成27年度から悪化したもの	担当課としての現状分析 (現状と課題)	
5	学びの環境を保障する	経済的な理由や家庭環境により子どもたちの学習機会が制約されることのないよう支援します。	児童館、センター、クラブの定員	910人	975人	970人	○	子育て応援プランと共通の目標値	<ul style="list-style-type: none"> 既存の児童館、センター、クラブの定数増の取り組みを行ってきましたが、期間中に民間の児童クラブ1ヶ所が新設されたこともあり、目標を上回ることができました。 奨学生の応募者が減少傾向にあります。少子化や他の給付型奨学金制度の利用が考えられますが、真に必要な経済的に就学が困難な学生に利用していただけるよう、引き続き周知をしていく必要があります。 就学援助の援助対象費目の拡充（PTA会費、生徒会費、クラブ活動費など）や援助単価の増額を求める声があります。 	
6	地域ぐるみで子どもを育てる	家庭、学校、地域のそれぞれが子どもの教育における役割を果たすとともに、互いに連携・協力して地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めます。	学校長が、「保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれる」と感じる割合。	小学校	68.40%	100%	90.00%	○	全国学力学習状況調査 学校質問紙「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動によく参加してくれる」と感じる割合	<ul style="list-style-type: none"> 飯田コミュニティスクールが発足し、全ての学校で学校支援ボランティアが、今まで以上に学校の活動に参加してくれるようになったことが要因として考えられます。 学校がリードするコミュニティスクールから、地域が主体となるコミュニティスクールへ変換していきます。（学教） 学校と地域と家庭が子どもを取り巻く環境の課題を共有し、これまで以上に連携を強めて子どもたちの育成に取り組むことができるよう学校運営協議会を充実していくことが課題です。（公民館）
			中学校	55.60%	100%	80.00%	○			
7	生涯学び続けられる環境をつくる	市民の様々なライフステージや多様なニーズに応じた学習や交流の機会を提供し生涯にわたって学び続けることができる学習環境を整備します。	国際交流・多文化共生に関する学習機会の提供	130	145	130	○	生涯学習・スポーツ課、公民館における学習・講座の提供数	<ul style="list-style-type: none"> 各地区公民館において、日本語教室や各種交流事業・講座を実施して多文化共生意識の醸成に努めています。さらに、外国人住民の一人ひとりが活躍できる地域づくりが課題です。（生・スポ） 文化庁、自治体国際化協会の事業を受託し、日本語教室の学習を支援するサポーター及びコーディネーターの養成を行いました 互いに尊重し合う社会を構築していくためには、国際社会や国内の社会情勢などを身近なこととして捉える意識の醸成が必要であり、人権や平和、国際理解に対する学びを継続的に行っていく必要があります。（公民館） 	
			読書活動を推進するための講座・講演会等の提供	131	148	138	○	「よむとす事業」等を通じた読書活動推進のための学習機会提供数		<ul style="list-style-type: none"> 図書館の所蔵する様々な資料を使って、また市民や関係機関と連携することで、新たな内容の講座を開催する機会が増えました。 多様化する市民ニーズに合致した図書や情報の提供が必要です。 若い世代の読書への関わりが低くなりつつあります。 読書や学びを通して交流が広がるためには、市民が主体的に参加できる企画や実施方法をとることが必要です。（図書館）
8	地域づくりの担い手を育てる	「ムトス」と「結い」の心による市民主体の地域づくりが将来に向けても展開されるよう、市民の学習活動への支援と地域づくりや地育力を担う人材の継承と発掘・育成を進めます。	学習機会の提供数（件）	1,815	1,837	1,900	△	生涯学習・スポーツ課、公民館、図書館、文化会館、美術博物館、歴史研究所における学習・講座の提供数	<ul style="list-style-type: none"> 学級講座の参加者の高齢化が進んでおり、青壮年層の地域や学習への関心を広げていくことが課題です。（公民館ほか） 	
			地域人材を活用した講座・サークル活動の数	1,564	1,216	1,560	▲	市内在住の講師・指導者を活用して行った講座・サークル活動等の数		<ul style="list-style-type: none"> 各地区で活動するサークルや講師・指導者となりうる地元の研究者の高齢化が課題となっており、次世代の育成が課題です。（公民館） 会員が減少している読みきかせボランティアグループもあり、後継者育成が必要です。（図書館） 理科実験ミュージアムの継続した運営のためのスタッフの確保が課題です。（生・スポ） ボランティアスタッフの募集に毎年苦慮しています。スタッフの高齢化や、高校卒業を契機に活動から遠ざかる傾向にあり、新たな人材を確保するための取り組みが必要です。（美博）
			専門委員会が企画した事業の数（回）	537	874	530	○	-		<ul style="list-style-type: none"> 地域住民によって組織される公民館活動の中心となる専門委員会は、地域を素材に各地区の特徴を活かした学習と交流の場を企画立案した成果が表れたと考えられます。（公民館） 専門委員の経験年数（在籍期間）が短期化するなかで、地域自治の担い手となる主体性のある人材を育てる必要があります。（公民館）
9	文化力を高め心豊かな市民生活を実現する	心豊かな市民生活の実現をめざし、市民自ら主体的に取り組む文化芸術活動を支援するとともに、多様な文化芸術に触れる機会を提供します。	文化芸術を鑑賞したことのあつた人の割合	54.30%	64.3%※	60.00%	○	市民意識調査における割合	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査の割合は年々増加しており、文化芸術への関心を広げる機会提供や市民主体の創造活動の支援により、少しずつ市民の文化芸術への関心が向上していると考えます。 初めて学校人形劇に取り組み担任や顧問の先生に対する研修会を充実させていく必要があります。（文化会館） 	
			文化芸術活動を行っている人の割合	24.20%	-	25.00%	-	※令和元年度の市民意識調査の設問は「文化活動（芸術の鑑賞など）」として、「鑑賞」と「行っている人」を統合した調査とその実績値となっている。		

12の柱	ねらい	指標名	現状 (平成27年度実績)		令和元年度 実績	目標 (令和2年 度)	達成 状況	備考 ※達成状況 ○：達成、△未達成、 ▲未達成で平成27年度から悪化したもの	担当課としての現状分析 (現状と課題)	
			飯田市							
10	スポーツにより人と地域が 輝く社会(まち)づくりを進 める	生涯スポーツ・コミュニティ スポーツ・競技スポーツの推進 を通じて「人と地域が輝く社会 (まち)飯田」注1をつくりま す。 (注1：飯田市スポーツ推進計 画の基本理念)	子どもの運動能力総合評価の A・B評価の割合	飯田市	38.30%	35.70%	全国値以上 にする	▲	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調 査結果を基に目標値を設定。調査対象である小 学校5年と中学校2年の平均値	・スポーツ庁の分析によると、「テレビ、DVD、ゲーム機、スマホ、PC等の視聴時間が長 時間になると体力合計点が低下する傾向がみられるとされており、その他朝食摂食の有無や 児童生徒の体格等についても関連性が指摘されています。 ・飯田市では、学校別に全国値と比較すると、小学校では全国値を上回る数値を記録してい る学校が多いですが、中学校、特に大規模中学校においては全国値を上回る数値は少なく なっています。また、種目による偏りも見られます。 ・地域別では奄東地域の小中学校は概ね高い数値を記録しています。(学教)
			成人の週1回以上スポーツに親 しむ人の割合		38.80%	48.20%				
11	「伊那谷の自然と文化」の 学究・普及・継承・活用を 推進する	独自で、多様で、奥深い「伊那 谷の自然と文化」をテーマに、 市民研究団体等と協働して学術 研究、教育普及、保存継承活動 を進めるとともに、地域づくり や魅力ある生活文化の創造・発 信につなげる取組を推進しま す。	調査研究報告書等の発刊件数		16	12	18	△	生涯学習・スポーツ課、図書館、美術博物館、 歴史研究所における報告書等の発刊数	・文化財発掘調査数が当初の計画より少なかったため、報告書の刊行数が減っています。 (生・スポ)
			教育普及事業実施回数		1,972	1,906	2,070	▲	生涯学習・スポーツ課、公民館、図書館、美術 博物館、文化会館、歴史研究所における学習・ 講座の提供数	・青年層の年代に地域との関わりが希薄となる傾向があるため、地域を担う人材育成につな がる講座や学級のあり方の検討が必要です。 (公民館) ・世代等に応じた学びに対するニーズの把握や、市民が主体的に参加できる企画や実施方法 をとることが必要です。(図書館) ・地域研究の基盤を支えた人材や組織が世代交代の時期となっています。また、学びへの ニーズは多様化しています。(美博)
			美術博物館来館者数		50,910	44,442	53,500	▲	美術博物館で把握	・昨年度は、自然、文化展示リニューアル工事に伴う休館及び休室により入館者が減少しま した。 ・学術研究に関わる教員や市民が高齢化する一方、後継者育成が進まず、美術博物館学芸員 や専門研究員への調査研究の比重が増してきています。(美博)
			指定文化財等の累計		174	189	185	○	国・県・市の指定・登録された文化財数	・平成28年度に国史跡飯田古墳群（13基）が国史跡に指定されました ・「座光寺の石川除」、「遠山川の埋没林と埋没樹」が上位（県）指定されました。 ・遠山郷の文化財を中心に、毎年2～3件市指定に取り組みました。(文化財) ・史跡恒川官衙遺跡の発掘調査を着実に進め、公園の設計等協議に向けたデータ蓄積を図る 必要があります。 ・史跡飯田古墳群の保護を万全とするために、追加指定に向けた確認調査を今後も継続的に 進める必要があります。 ・遠山郷の自然歴史文化資源について県指定候補物件を含め調査を進め、指定候補物件の洗 い出しを進める必要があります。(生・スポ)
12	教育関連施設のマネジメン トを進める	優先検討施設のうち方針の決定 ができた施設数（分野数）	飯田市公共施設等総合管理計 画及び飯田市公共施設マネジ メント基本方針に基づき、教 育関連施設の将来方針を明ら かにし、実施可能な施設から 具体的な取組を進めます。	2	3	6	▲	分野は、学校、教職員住宅、ホール施設、考古 民俗資料館、武道施設、図書館の6分野	・各施設の建築物に対する劣化度調査を基に、学校施設の長寿命化計画（個別施設計画）を 令和2年度中に策定する必要があります。 ・今後、児童生徒数の更なる減少により、余裕教室の発生が予想されることから、その活用 方法について、施設の長寿命化や複合化利用といった視点と併せて検討する必要があります。 ・引き続き、利用の見込めない教職員住宅については、解体及び用途廃止をしていく必要が あります。 ・県図書館施設については、安全対策のため県自治振興センター3階へ移転しますが、その 後については飯田市の図書館全体の運営体制を検討中であり、また県地区の公共施設につ いても検討中です。 ・ホール施設については、公共施設マネジメントによる優先検討施設として方針案を決定す ることになっていたが、広域連合による新施設の検討、リニア関連事業を踏まえた市の長期 財政見通しとの関係から、具体的な検討内容を示すまでに至っていません。 ・現在の施設を長く大切に使うためには、日常点検、法定点検、有資格者による点検によ って施設の状態を把握しながら、必要な改修を加えていく必要があります。	

第 2 次飯田市教育振興基本計画の中期見直しに向けて

飯田市教育委員会

1. 飯田市教育委員会がめざす 12 年間（平成 29～令和 10 年度）の教育ビジョン
「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」

2. 前期 4 カ年（平成 29～令和 2 年度）の取組みの振り返り…資料 4

飯田市教育委員会では、飯田市の教育ビジョンを実現するために、「いいだ未来デザイン 2028」と連動させながら、6つの教育振興方針とその方針に基づいた12の取組みの柱を定め、平成 29 年度より各事務事業に取り組んでまいりました。

また、前期 4 年間の取組みとして、3つの重点目標（アクションプログラム）を掲げ、飯田市の教育課題に対して、学校教育、社会教育、そして学校教育と社会教育との連携により、重点的に取組みを展開してきました。12 の柱に基づくそれぞれのねらい、それに対する取組みの達成状況や現状・課題等を振り返りました。

3. 中期 4 カ年（令和 2～令和 5 年度）に向けての取組みについて

(1) 中期に向けた策定の見直しの考え方

少子・高齢、人口減少社会の到来やリニア開通により、この地域を取り巻く現状は大きく変貌することが予想されることは周知のことですが、さらに、今回の新型コロナウイルスの影響を受けた「ウイズコロナ社会」に対応する新しい学びの在り方が問われています。

予測困難な未来に対応するためには、社会の変化に主体的に関わり合う過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、皆で幸福な人生とよりよい社会を創りだしていこうとする人材を育成していくことが重要となります。

そのためには、今一度この地域の強みである社会教育により積上げられた学びの土壌の歴史を振り返るとともに、地域社会の現状や課題に目を向け、この地域の未来を創る教育のあり方について考えていきます。

(2) 中期見直しに向けた進め方とスケジュール

前期 4 年の成果と課題を整理し、中期 4 年の目的・目標を明確にしていきます。各課で見直しを進めていくにあたっては、有識者の皆様の意見を踏まえ、下記の日程で進めていきます。

① 全体スケジュール(予定)

- | | |
|--------|--|
| 7～ 8月 | 前期 4 カ年の振り返り |
| 9～10月 | 基本的方向・重点目標の検討
目標達成数値・KPI の検討 |
| 10～11月 | 策定関係各会議の開催
(策定懇話会、教育委員会、校長会、社会教育委員会等より意見集約) |
| 12月～2月 | 社会教育関係機関等からの意見集約（パブリックコメント） |
| 2月末 | 策定（予定） |
| 3月 | 議会議案提出(予定) |

② 社会教育委員会議

- | | | |
|--------|---------------|--------------------|
| 7月 29日 | 第 1 回社会教育委員会議 | この地域の社会教育のあり方について |
| 10月頃 | 第 2 回社会教育委員会議 | 具体的な目的・目標・成果指標について |
| 12月頃 | 第 3 回社会教育委員会議 | (予備) 計画案について |
| 3月頃 | 第 4 回社会教育委員会議 | 報告 |

4. 本日の会議の論点

第2次教育振興基本計画の中期4年の見直しにむけて

【論点1】これからの社会に求められるこの地域の社会教育のあり方はどうあればよいか。

- ① 参加者や研究者の高齢化、次世代の担い手の育成等の現在の地域課題に対し、これからの社会を見据え、社会教育分野が特化すべき取り組みや盛り込むべき視点は何か。
＝リニア時代の到来やコロナ社会への対応のために必要不可欠な視点は？
- ② 飯田の強みは何か。
＝失ってはならないものや変えていくべきものは？
- ③ 地域（コミュニティ）の現状や課題は何か。
＝それぞれの活動から見えてくる現状や課題は？

【論点2】中期4年の目的・目標を明確化していく上で、12の柱のねらいとそれぞれの成果を測る指標(KPI)は適切か。